

# AUDIO PLAN

2005年8月1日発行 スイングジャーナル別冊 Audio & AV Magazine

35周年特集号 **1冊まるごと**  
**JAZZ SOUND**  
**& JAZZ AV**

## 有名オーディオ・ブランド vs ジャズ・サウンド

ブランド・フラッグシップ vs ジャズ・サウンド  
特選! プレイヤー/アンプ vs ジャズ・サウンド  
特選! スピーカー vs ジャズ・サウンド  
特選! ジャズ・ホームシアター・システム  
ジャズ・オーディオを楽しむ〜ファン訪問

管球式モノラル・パワーアンプ AUDIO SPACE Reference One

P.76 参照

ドルファイヤーのバスキュラは  
力強くエネルギーギッシユ



## BRAND HISTORY オーディオスペース

香港映画「無間道 (Infomal Affairs)」の冒頭、オーディオ・ショップでAudio Spaceの真空管アンプをアンディが購入する場面はMr. Peter Lauが運営する香港、九龍深水歩のお店での撮影でした。現在3店舗を有し、真空管アンプ販売では香港でNo.1の実績を誇るこの店舗は、10年前より、自ら組み立てた真空管アンプの販売を目的に、Mr. Peter Lauが香港の秋葉原といわれる現在の場所です。後に、人気の高さから量産が必要になり、OEM生産を依頼したのが、同様に真空管アンプを製造していたスパークの工場でした。しかし、2003年には自前の工場を持ち製販

一貫のオーディオ・メーカーの仲間入りを果たし、販売会社をTop International、製造部門をAudio Space Acoustic Laboratory Ltd.として、世界市場のニーズに応じながら製品をオーディオ市場に送り出しております。

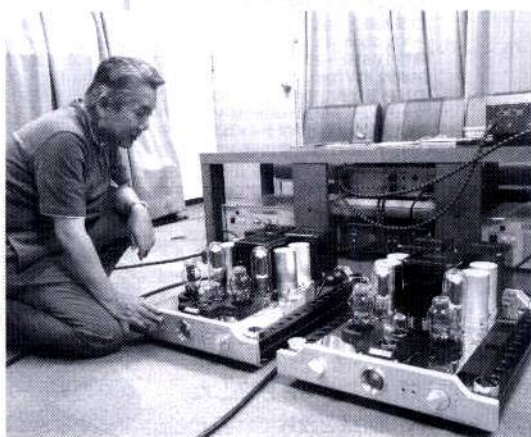
現在では、真空管845を搭載した旗艦モデルReference-Oneをはじめ、アマチュア時代の夢をひとつひとつ実現、オーディオ・マニアを虜にしております。ユーザーの意見をお店で吸収し、それを実現するためにチャレンジを重ね、音楽ファンを魅了する音造りに邁進。今年6月には、より合理的で環境の良い新天地に工場を新設いたしました。ヨーロッパ

の老舗オーディオ・メーカーからの委託生産をはじめ、カーライフに真空管アンプをとの要望に応じて、カーオーディオの製造ラインも新設いたします。これも近々、日本市場に参入する予定です。真空管にこだわる理由は、これに勝る良い素材が見つからないということもありますが、真空管自体も進化しています。その時代の最高の素材を世界から集めてより良い製品に仕上げる、その製品によって音楽家や演奏者の伝えたい音をより多くのリスナーに伝えることこそAudio Spaceの製品が持つ使命と考えているからです。(カインラボラトリー・ジャパン)

# BRAND FLAG SHIP VS JAZZ SOUND 9

ドルフィーのバス・クラリネットが  
力強くエネルギーに浸透、  
新しい発見と新鮮な驚きをもたらす

高津修



ERIC DOLPHY

LAST DATE

[CD]  
ラスト・デート  
エリック・ドルフィー  
マーキュリー・  
エンタテインメント  
mercury PHCE-30

試聴ジャズ・アルバム

## Overview

**直熱3極管「845」を駆使したフラッグシップ機、  
家庭用真空管パワーアンプとして最大級の規模を持つ**

オーディオスペースは、本誌の別ページで紹介しているカイン製品の  
上級ブランド。中国産で、フォノ・  
イコライザーからパワーアンプまで、  
真空管方式による個性的なラインア  
ップが各種整っている。その、文字  
どおり最高峰といえるフラッグシ  
ップ・モデルが直熱3極管845を駆使  
した大型パワーアンプReference  
Oneである。本機は04年に登場して  
いるので最新製品ではないが、ホー

ムオーディオ用真空管パワーアンプ  
としては最大級といってよい規模を  
もっており、誌上に出てくる機会も  
めったにないと思われる。そこです  
こしマニアックな記述になりすぎる  
かもしれないが、珍しい技術内容を  
探検してみることにしようと思う。

## Details

**名球300Bで「845」を  
ドライブするという  
真空管全盛時代には  
想像もできなかった実に  
贅沢な構成だ**

2年にわたる開発期間を経て完成  
したという本機は、845真空管のポ  
テンシャルを最大限に引き出すこと  
を目標としたプッシュプル・アンプ  
で、公称出力75Wのモノブロック構  
成になっている。2台でステレオ。合  
わせた重量が110kgに達するジャン  
ボ・アンプである。

845は、1930年代の初めにRCA  
が開発したオーディオ用の出力管で、

M O N O P O W E R A M P L I F I E R

# AUDIO SPACE

モノラル・パワーアンプ

# Reference One



モノラル・パワーアンプ オーディオスペース Reference One ペア¥1,575,000(税込み)

【主要規格】 型式：管球式モノラル・パワーアンプ、使用真空管：300B×2、845×2、6N9P(6SL7 ECC35)×1、6N8P(6SN7 ECC32)×1、出力：75W(p-p Class A)、再生周波数帯域：20Hz～30kHz ±1dB、入力：バランス×1、RCA×1、外形寸法：495×285×660(WHD)mm、質量：55kg

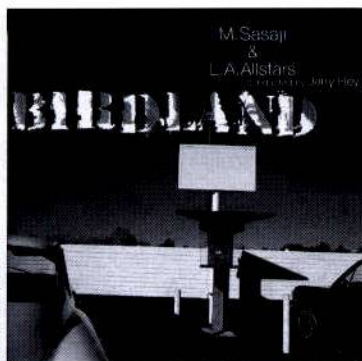
優れたリアリティをもっているが、とにかく昔の球なので感度が低く効率がよくない。そこをカバーするために、Reference Oneは1,100Vというとてつもない高電圧をかけ、固定バイアスのA級動作で75Wの良質なパワーを引き出している。うっかり素手で触ったりすると生命にかか

わりかねないほどの高電圧だから、われわれしろうとがけっして底板を開けてはならない巨大玉手箱アンプである。

845をドライブする真空管がまたすごい。3極出力管の王様などと呼ばれる天下の名球、300Bを2本使用している。これは、真空管の全盛

時代には想像もできなかった贅沢なつかいかたなのだが、845との相性が格別よいのだろうか、似たような構成の豪華アンプが近年いくつか出現している。また、ことし後半には、別のメーカーからも同様なアンプが出てきそうな気配もある。真空管アンプの時代もいまだ活発に動き、変

# 9 BRAND FLAG SHIP VS JAZZ SOUND



[SACD]  
バードランド  
M.Sasaji & L.A.Allstars  
ソニーミュージック：  
SMEJ SRGL-614



試聴  
ジャズ・アルバム

[CD]  
フォー・センチメンタル・  
リーズンズ  
リンダ・ロンシュタット  
ワーナーバイオニア：  
ASYLUM 32XD-500

貌し続けているというわけだ。

300 Bの前段は双3極管6SL7と6SN7の2段増幅。初段が差動増幅で、全段3極管によるバランス・アンプとなっている。入力にはしたがってバランス入力が主。スイッチ切り換えでアンバランス接続にも対応する。バランス入力端子は2番ピンがホットである。

3極管アンプは出力インピーダンスを低くすることができるので、NFBに依存しなくても良好な性能が得られる。本機も基本的には無帰還アンプで、スイッチ切り換えにより2dBのオーバーオールNFBをかけられる。そのためスイッチはシャーシ内部

にあるらしく、探しても見当たらない。あらかじめどちらかに固定してつかうという考えかたのようだ。

845と300Bのバイアス電圧は、フロント・パネルのメーターとシャーシ天面のボリュームで個別に調整できる。逆にいうと、これらを正確にアジャストする必要があるので、むやみに球を挿し替えてはならない。真空管アンプにもさまざまなタイプがあるけれど、この製品は大排気量のレーシング・マシンにも似た超高性能アンプなのだと思っておくほうがよいと思う。バイアス・メーターは、簡易なレベル・インジケータとしてもつかえるように設計されている。

## Sound Impression

**L.ロンシュタットの声のニュアンス表現も丁寧、パワーとデリカシーとハーモニーが危なげなくバランスしている**

本誌試聴室のリファレンス・システムに挿入して聴いた。エリック・ドルフィーの『ラスト・デイト』で、僕は今さら恥ずかしながらの発見をしてしまった。むかし買ったLPのレーベルにはMONOと表示されていて、イントロの拍手が真ん中あたりから聞こえる。だから気にもとめずに聴いていたのだが、今回のCDではシンバルが右チャンネルに定位し、ベースのエコーが右方向へ流れていく様子もはっきり聴きとれるのだ。すなわちステレオ録音だ。ディスクにもSTEREOとあるではないか。モ



▲奥にあるのが直熱3極管「845」、その手前が名球として知られる「300B」。その300Bが845のドライバーとして使われているのである。中央部の真空管はGT型双三極管6SN7だ。

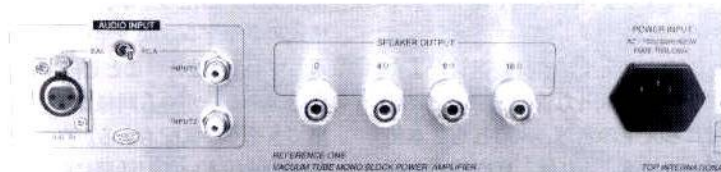


▲本体後部には巨大なトランスが3個配置されている。左奥がパワーサブライ、右奥がチョークコイル、そして手前にはアウトプット・トランスフォーマーと記されている。

▼フロントパネル右側に設けられているバイアス・セレクター。この設定も管アンプの重要な使いこなしだ。



◀入力端子はアンバランスRCA 2系統とバランスXLRの双方が設けられており、スイッチで選択する。スピーカー出力は4Ω、8Ω、16Ωの3つに対応している。





ノ・アンプのセパレーションのよきも手伝って、音場の広がりがかきらかになった。オーディオは真面目にやらねば損だと反省している。

バス・クラリネットの音色が思いのほか力強くエネルギーに浸透してくるのも驚きだ。ハイノートま

ですっきり伸び、古い録音ではあるがひと皮むけて新鮮なおもしろさに満ちた音楽が愉しめる。ドルフィーの「遺言」はさておき、録音とはありがたいものである。

『バードランド』はおなじみスーパーオーディオCDの快作。できるだけ

大音量で聴いてほしい、とジャケットに注記されているが、JBLの4348に対して75Wの真空管出力はまじゅうぶんだといえる。

無帰還、またはそれに近い3極管アンプは、過大入力によるクリッピングがはっきりしないものだ。計測上の最大出力を超えてもなんとなく、電源のキャパシティがともなうかぎり伸びていく傾向がある。むろん歪は急増するのだが、耳につく成分がすくないのであまり気にならない。スペックの2〜3倍くらいな聴感パワーがある、などといわれるのは、そのためである。腰の座ったパワフルな真空管サウンドは本当に気持ちがいい。ホーン・セクションの輝かしいエネルギーを縫って、ピアノもくつきりとぬけてくる。

リンダ・ロンシュタットの声のニュアンス表現も丁寧だ。ギターのリズム運び、ストリングスの和音やバックコーラスのパートの分離も文句のない高水準。パワーとデリカシーとハーモニーが危なげなくバランスしている。先に大排気量の高性能なレーシング・マシンといったが、居心地のよさも特筆に値する。

4348の高感度がピタリとはまった印象、組合せでも推薦

## System-up Plan



SACDプレイヤー:

ソニー SCD-DR1 ¥1,260,000 (税込み/受注生産品)

**【主要規格】** 型式: SACDプレイヤー、D/Aコンバーター: スーパーオーディオD/Aコンバーター、ピックアップ: ツインレーザー、電源トランス: Rコアトランス×3、シャーン構造: DR/FBシャーン、周波数特性: 2Hz~50kHz(スーパーオーディオCD)、2Hz~20kHz(CD)、ダイナミックレンジ: 110dB以上(スーパーオーディオCD)、100dB以上(CD)、全高調波歪率: 0.001%以下(スーパーオーディオCD)、0.0017%(CD)、デジタル出力: i.LINK×1、光×1、同軸×1、バランスド・デジタル×1、アナログ出力: 1系統(ステレオ)、外部入力: ワードシンク×1、外形寸法: 340×140×465(WHD)mm、質量: 18.5kg

プリアンプ:

オーディオスペース  
SPRE-1

¥312,900 (税込み)

**【主要規格】** 型式: 管球式プリアンプ、入力感度/インピーダンス: 150mV/68kΩ (LINE)、0.3~1mV/4kΩ~68kΩ (Phono MC)、3~10mV/47kΩ (Phono MM)、出力インピーダンス: 10kΩ以下、出力電圧: 2~30Vp-p MAX、周波数特性: 10Hz~120kHz±1dB、全高調波歪率: 0.2%以下 (20Hz~20kHz)、SN比: 90dB以上(残留ノイズ200μV以下)/LINE OUTPUT、68dB以上(残留ノイズ0.5mV以下)/Phono MC LINE OUTPUT、70dB以上(残留ノイズ0.4mV以下)/Phono MM LINE OUTPUT、チャンネルバランス: 0.7dB以下 (20Hz~20kHz、出力最大時)、チャンネル・セパレーション: 65dB以上 (1kHz~3.3kHz)、使用真空管: 6SN7×2、6SL7×2、消費電力: 約80W、外形寸法: 250×110×335(WHD)mm、質量: 6.5kg  
**【輸入元】** カイン・ラボラトリー・ジャパン



スピーカー・システム: JBL 4348 ¥840,000 (税込み)

**【主要規格】** 型式: 4ウェイ4スピーカー・バスレフ型、使用ユニット: 38cmピュアバルブ・コーン型ウーハー (1500FE)、25cmファイバーコンボジットコーン・コーン型ミッドバス (2251J-1)、75mmアルミニウムダイヤフラム・コンプレッション・ドライバ (435A) + 38mmスロート・バイラジアルホーン、25mmピュアチタン・コンプレッション・ドライバ (045T1) + 4.9mmスロート・バイラジアルホーン、再生周波数特性: 33Hz~40kHz (-6dB)、出力音圧レベル: 95dB/2.83V(1m)、許容入力: 400W(RMS)、定格インピーダンス: 6Ω、クロスオーバー周波数: 300Hz、1kHz、10kHz、外形寸法: 597×1080×400(WHD)mm、質量: 90.7kg  
**【輸入元】** ハーマンインターナショナル株式会社



## System-up Plan

組合せるアンプも管球が望ましいが候補はPRE-1、本機対応モデルが登場すればそれがベストの組合せ

組合せるプリアンプは真空管方式にしたい。オーディオスペース製品で今のところ候補になるのはPRE-1だけである。もしもReference対応モデルが出るなら、将来はそちらを組合せたいと思う。プレイヤーはソニーSCD-DR1。より密度の濃いサウンドになるはずだ。スピーカーについては、4348で問題ない。というより、この高感度がぴたりとはまったと考えている。